

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより



平成28年10月28日

第67号

きらりNet

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

高等部における進路の取組を紹介します



「校内実習」「事業所見学」「現場実習」を実施しています

【校内実習】

6月、1～3年の1・3組で、縫製班、紙工班、リサイクル班、名刺作成班の4つの班に分かれて実施しました。卒業後の生活を想定して、働く生活の流れを体験すること、5日間の実習を通して、自分自身の適性や体力などを知り、自己理解を深めることをねらいとしています。



ミシンで巾着を作っています

【事業所見学】

(前期6月、後期11月：現場実習の期間に併せて実施)

本人・保護者の関心のある事業所について担任と相談し、個々に合わせた形で見学を実施しています。実際に足を踏み入れてみないと分からないことも多く、特に車椅子を使用する生徒の場合、建物の段差や車椅子で移動できるスペース、トイレなどが見学のポイントとなります。また、仕事(活動)の内容が生徒に合っているかということも、実際に見てみなければ分からないことが多く、見学することでより充実した現場実習へとつなげています。

【現場実習】

(生活介護事業所、就労継続支援B型事業所など)

事業所の日程に沿って、仕事(活動)をします。生徒によっては1日のみの体験の場合もありますし、5日間行う生徒もいます。日数は、生徒・保護者の希望を踏まえ、事業所と相談して決めます。

また、現場実習の目的は学年によって異なります。現在、高1は「事業所見学」を経て体験する、高2は複数の事業所から絞り込む、高3で決定する、という形で進めています。早い段階から事業所を絞り、じっくり時間をかけて見極め、卒業後の生活にスムーズに移行していくのが理想です。そのためには中学生のうちから、社会に出たらどうしたいのかという意識をもつことが大切です。

現場実習では作業する力はもちろん大切ですが、コミュニケーション力がとても重要です。挨拶、返事など、事業所側から指摘されることがあります。人と関わる力については、小学生の段階からの積み重ねが大切です。家庭と学校とで協力しながら、「笑顔の素敵、めんこがられる人」に育てていきたいものです。



ちらしで箱を作っています



パソコンで、ちらしのレイアウトをしています

注目!

連載 きらりの授業 その⑤

各教科等を合わせたグループの授業の紹介です。
(中学部1～3年)

中学部 「作業学習」

月曜日と水曜日の3、4校時、週4時間行っている作業学習では、「油グッパイ(油吸い取りパック)」、「カラフルクリーナー(アクリルたわし)」の2つの製品を製作しています。主な作業内容として、牛乳パックを細かくちぎるパルプちぎり作業、新聞紙を細かく裁断するシュレッダー作業、パルプを裁断するミキサー作業、パルプと新聞紙を混ぜた物をお茶パックに詰める袋詰め作業、アクリルの毛糸を指編みでたわしを作るカラフルクリーナー作業があります。生徒の目標や課題に合わせ、年間を通して同じ作業を担当しています。

完成した製品は毎月「いぶきの里」に納品、販売し、「かがやきの丘祭り」「PTA」等でも販売をしています。自分たちが製作した作業製品が売れる喜びから、もっと作りたい、もっとよい製品にしたいという気持ちの高まりが感じられます。作業強調週間として、前期は7月に3日間、後期は12月に4日間、計7日間作業日を設けています。作業強調週間を経験することで、1日作業をすることの大変さを感じながらも、根気強さや集中力が高まり出来高が格段に増えています。自信がついたことで声も大きくなり、状況に合わせたあいさつもできるようになりました。



環境に優しい製品



～吸収剤作り～お茶パックに、パルプと新聞紙が混じった物を計量し、端まで詰まっているか気を付けて袋詰めをします。

～ミキサーパルプ裁断～ミキサーを動かす時間を決め、タイマーをセットして裁断します。



～パルプちぎり～1年生全員で行っています。ミキサーが故障しない大きさまで小さくちぎります。

教育専門監のコーナー

《生徒が「できる」ようになる4つの要件》

- ◎生徒個々の障害の状況(作業能力)に応じた**工程の工夫**
- ◎「やりにくい」状態を解消(改善)する**補助具の開発**
- ◎集中力を高める**環境づくりの工夫**
- ◎**教員の関わり方**や立ち位置

《授業づくりのポイント》

- ★生徒が分かりやすい目標を設定し、成果が確認できるようにする。
- ★生徒が「今できること」を大切にすること。
- ★教師の働き掛けを最小限にして、生徒の自発的な動きや気づきを引き出す。
- ★作業学習だけでなく、他の学習と関連付けを図る。
- ★椅子や作業台の高さや位置を常に見直し、身体を支える場所を作る。
- ★姿勢や上肢の動かし方など、自立活動との関連付けを図る。

「分かる・できる 作業学習」

学習指導要領には「作業学習」のポイントとして「将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習し、生徒の働く意欲を培う。」と示されています。中学部では、生徒の得意な力を発揮できるような工程により、作業の目的を明確にして、生徒の達成感と製品の品質向上を大切にしています。また、報告、連絡、相談を意識する場面で社会に出たときを意識した用語や言葉遣いをすることで、生徒の仕事への意識を大切にしています。

作業学習だけでなく、関連する教育活動での生徒の「分かる」「できる」状況づくりを進め、生徒の個々の状況に応じた作業工程の提示と、活動に取り組む喜びや完成の達成感を感じる製品作りを心掛けています。

文責：二階堂悟

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭 伊藤 敏博 地域支援部 佐藤 忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail: kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

